

ICT ニュース～今年のノロウイルス感染症は？～

院内感染対策委員会 11月号

主要流行株、GⅡ.4からGⅡ.17に新しい遺伝子型流行の兆し

2014/15シーズンでは、日本国内におけるノロウイルスの主要流行株に大きな変化がありました。ノロウイルスは7つの遺伝子群（GⅠ～GⅦ）に分類されており、そのうちヒトに感染し胃腸炎を引き起こすのは、GⅠ9種類、GⅡ19種類、GⅣ1種類の計29種類です。これまで日本ではGⅡ.4が多く報告されてきましたが、2014/15シーズンは、国内であまり検出されていなかったGⅡ.17が100例報告されており(12月：3件、1月：11件、2月：55件、3月：31例)、2月ならびに3月にはGⅡ.17が優位となりました。

日本では2014年3月に神奈川県にある川崎市健康安全研究所へ搬入された感染性胃腸炎患者の糞便検体から、GⅡ.17の中でもこれまでと異なる遺伝子配列を持ったウイルスが検出され、**新規遺伝子型としてGⅡ.P17-GⅡ.17 Kawasaki 2014(以下、GⅡ.17変異株)と命名**されました。GⅡ.17変異株は、2014/15シーズンに長野県、埼玉県、栃木県など関東近隣で流行していたことが確認されており、また三重県での検出報告もあったことから、**全国的に流行していることが推察**されています。また、前述の通り中国でも2014/15シーズンに大きなアウトブレイクが発生しており、米国でも散発的に検出されていることから、既に世界中で検出されている可能性があると考えられています。なお、**GⅡ.17変異株はGⅡ.4に比べてノロウイルス簡易検出キットで検出されにくい傾向があると報告されています**。病原性の変化は確認されていませんが、現段階ではGⅡ.17変異株に対する免疫を持たない集団が多いと予測されており、今後GⅡ.17変異株が主要流行株となって大流行する恐れがあるため、動向に注視が必要です。